



### 【オーケストラ配置図】

2/23 第1037回定期演奏会

※楽器の配置は一例です。  
当日のステージで確認  
してください。

# ヤングシート Young Seat

2/23 2026 (月・祝) 会場 東京芸術劇場コンサートホール

第1037回定期演奏会Cシリーズ  
Subscription Concert No.1037 C Series

指揮/デイヴィッド・レイランド  
ピアノ/ティル・フェルナー

ファニー・メンデルスゾーン=ヘンゼル：  
序曲 ハ長調 (約10分)

モーツァルト：  
ピアノ協奏曲第27番 変ロ長調 K.595  
(約32分)

シューマン：  
交響曲第1番 変ロ長調 op.38 《春》  
(約32分)

### ホールでの 過ごし方

- ◎携帯電話など音や光を発するモノは電源を切りましょう。
- ◎演奏中は静かに聴きましょう！周りの人も演奏を楽しんでいます。
- ◎公演中の録音・録画、写真撮影は禁止です。終演後のカーテンコール時のみ写真の撮影が可能です。

東京都交響楽団



指揮  
デイヴィッド・レイランド David REILAND, Conductor

フランス国立メス管弦楽団音楽監督、ローザンヌ・シンフォニエッタ首席客演指揮者、デュッセルドルフ交響楽団「シューマン・ゲスト」を務めており、ゲヴァントハウス管弦楽団、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団などを指揮するほかオペラでも活躍。  
モーツァルト作品の指揮に定評があり、また忘れられた作曲家の再発見や現代音楽の振興にも尽力している。2021年、フランス政府から芸術文化勲章シュヴァリエを受章。2023年からリエージュ王立音楽院教授。



ピアノ  
ティル・フェルナー Till FELLNER, Piano

ウィーン生まれ。アルフレッド・ブレンデルやオレグ・マイセンベルクらに師事。1993年のクララ・ハスキル国際ピアノ・コンクールに優勝して国際的に注目を集めた。これまでにクラウディオ・アバド、ヘルベルト・ブロムシュテットらの指揮で、ベルリン・フィルやウィーン・フィルなどと共演するほか、室内楽やソロリサイタル、CD録音など精力的に活動している。  
チューリッヒ芸術大学とグラーツ音楽演劇大学で後進の指導にもあたっている。

管弦楽  
東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra

東京オリンピックの記念文化事業として、東京都が1965年に設立し、2025年に創立60周年を迎えた。都響(ときょう)という愛称で親しまれている。  
東京文化会館(上野)を本拠地として、オーケストラの演奏会を開催する他、交響組曲『ドラゴンクエスト』(全シリーズ)などゲーム音楽の演奏、教育活動や福祉施設での出張演奏など多彩な活動を展開している。



©Rikimaru Hotta



都響ヤングシートは、企業や団体からご支援をいただき、休日昼間の都響主催公演を中心に青少年と保護者をご招待し、オーケストラコンサートをお楽しみいただいています。  
ご支援企業については月刊都響をご覧ください。

## Program Notes プログラムノート

今日のコンサートでは、メンデルスゾーンの姉ファニー、モーツァルト、シューマンによる生き生きとした作品が演奏されます。春の訪れが待ち遠しいこの季節にぴったりな、美しく喜びに満ちた音楽です。

### ファニー・メンデルスゾーン＝ヘンゼル： 序曲 八長調

ファニー・メンデルスゾーン＝ヘンゼル（1805～47）は、有名な作曲家フェリックス・メンデルスゾーンの4歳年上のお姉さんです。子どもの頃から音楽の才能に恵まれ、14歳でバッハの難しいピアノ曲を暗譜で弾きこなすほどでした。弟のフェリックスも姉の才能を認め、音楽について意見を交わし合う、仲の良い姉弟でした。

ところが当時のヨーロッパでは、女性が作曲家として活躍することはとても難しいことでした。父親は「音楽は弟にとっては仕事になるが、お前にとっては飾りにしかならない」と言ったそうです。それでもファニーは作曲を続け、生涯でなんと450曲以上もの作品を残しました。

この序曲は、ファニーが26歳のときに書いたオーケストラ作品です。1834年、メンデルスゾーン家の「日曜音楽会」で初演されました。穏やかな序奏で始まり、やがてヴァイオリンの素早いパッセージがオーケストラを目覚めさせます。「炎のように」と指示された躍動感あふれる主題が登場し、音楽は華やかで力強く発展しながら、堂々としたコーダで締めくくられます。



Fanny Mendelssohn-Hensel

### モーツァルト： ピアノ協奏曲第27番 変ロ長調 K.595

次に演奏されるのは、ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756～91）が残した最後のピアノ協奏曲です。完成したのは1791年1月、35歳で亡くなるわずか11か月前ですが、音楽は決して暗く沈んでいるわけではありません。むしろ、穏やかで澄んだ美しさに満ちています。

この前年の1790年、モーツァルトが作曲した数はあまり多くはなかったのですが、この曲をきっかけに最後の一年間で信じられないほどの傑作を次々と生み出しました。オペラ《魔笛》や合唱曲《アヴェ・ヴェルム・コルプス》、クラリネット協奏曲、そして未完となった《レクイエム》などです。この協奏曲は、そんな「奇



Wolfgang Amadeus Mozart

跡の1年」の幕開けを飾る作品です。

**第1楽章**は流れるような主題がオーケストラに現れ、ピアノが美しく飾りを添えながら歌い継ぎます。**第2楽章**はゆったりとした穏やかな音楽となります。**第3楽章**では、無邪気な主題をピアノが奏でます。その軽やかなメロディーは、モーツァルトがほぼ同じ時期に作った歌曲《春への憧れ》にも用いられました。「おいでよ5月、木々をまた緑にしておくれ」と歌うその歌は、今もドイツで親しまれています。春をわくわくと待ちわびる気持ちを、この協奏曲からも感じ取ることができます。

### シューマン： 交響曲第1番 変ロ長調 op.38 《春》

プログラムの最後は、ロベルト・シューマン（1810～56）による生命力に満ちた交響曲です。この曲は1841年の真冬、1月に書き始められました。外は雪に閉ざされていましたが、シューマンの心の中は「春」でいっぱいでした。というのも彼はその前の年に、長年結ばれずにいた女性クララと、やっと結婚できたのです。それまでピアノ曲や歌曲をたくさん書いていたシューマンは、ついに交響曲へと創作の世界を広げました。しかも彼は、たった4日間でこの曲のスケッチを書き上げています。当初は各楽章に「春の始まり」「夕べ」「楽しい遊び」「春らんまん」というタイトルを付けていました。作曲のきっかけには、友人の詩人アドルフ・ベトガーが書いた、春の到来を告げる詩がありました。「谷間に春が花開いている！」という詩の一節に刺激をうけて作曲されたのです。

**第1楽章**の冒頭はトランペットとホルンが力強く鳴り響きます。これはベトガーの詩の言葉のリズムにぴったりと合っています。**第2楽章**はシューマンの「歌」の才能が光る、うっとりするほど美しいメロディーが登場します。元気いっぱいの**第3楽章**スケルツォを経て、**第4楽章**では春の息吹を感じさせる音楽が響きわたります。初演はフェリックス・メンデルスゾーン\*指揮のライプツィヒ・ゲヴァントハウス管弦楽団によって行われ、大成功を収めました。

\*フェリックス・メンデルスゾーン  
作曲家として知られていますが、鍵盤楽器奏者・指揮者・教育者としても活躍しました。



Robert Schumann



Felix Mendelssohn

文/飯田有抄（クラシック音楽ファシリテーター）

東京都交響楽団YouTubeチャンネルでは、オーケストラで使われる楽器の紹介等を行っています。番外編として、都響のリハーサル室と道具のご紹介もしています。舞台上上がる演奏者を支える舞台スタッフの仕事にもご注目ください！

